

三里塚現地闘争を全国総決起！ 総武装として闘い抜け！

今秋期三里塚闘争に総決起し、 鉄塔撤去―開港策動を実力阻止せよ！

70年代中期の階級攻勢、帝国主義の侵略抑圧反革命、差別分断支配攻撃と対決する全人民的基礎での階級的重層性を維持し、包摂する全面的対決革命的政治闘争は、今日その持久性広範性を以て暴力とありわけて60年代後半に於ける安撫―沖繩闘争として頂点化された全人民的政治闘争の昂揚を、70年代以降の帝国主義ブルジョアジーの強圧的暴虐的侵略反革命再編のなしたプロレタリア体制の中にあって、その確立した闘争高地を維持し防衛し、発展拡大させている諸戦線の闘いは、その内部に於ける政治闘争―権力闘争への対峙―プロレタリア主義革命へのプロレタリアート被抑圧人民の階級的同盟―統一戦線化の中の発展として、他方に於ける侵略抑圧反革命の環としての差別分断支配攻撃―農民化政策との確実な対決という側面も保持しつつ、今日より一層帝国主義ブルジョアジーをしてその再編―なし崩し―プロレタリア体制の全面化の唯一の延命の策動を困難化ならしめている。

60年代後半―70年代、将に階級攻勢の激動期を一貫した反帝―反社実力闘争として闘い抜き、今日もその陣型を拡大化させている三里塚闘争の

的戦術的流動化の中でも、より一層波及的に拡大させている。三里塚闘争を位置付ける階級闘争―階級的位置は次の三点として確認されねばならない。

第一にすでに確認したように、この闘いは帝国主義ブルジョアジーの国内に於ける社民階級を包摂したところの侵略抑圧反革命―差別分断支配攻撃―なし崩しプロレタリア体制との全面的対決であり、それは60年代後半の安撫―沖繩闘争の中で勝ち取られた革命的階級闘争の質を、すなわち「組織された暴力」と「国際主義」の内実を維持し発展させたものとして、国際プロレタリアートとりわけ中国人民の圧倒的支持と、他方での実力闘争―大衆武装闘争―人民戦争として全階層全生活領域を武器に転化した人民総武装としての発展を、第三世界解放闘争の帝国主義内部での展開―結合と波及という二つの闘いの維持があり、今日の帝国主義ブルジョアジーとの対決としてこのプロレタリア体制の第三世界解放闘争への二重の位置を持つ将に侵略反革命の全面的対決であり、この質は安撫―沖繩闘争の中に於ける「侵略基地撤去」―「基地撤去」の70年代にその頂点を迎える闘争としても、またとりわけ沖繩での「日帝米帝の共同反革命侵略基地撤去」―「基地撤去」の闘争を軸に、全国の「基地撤去」―「侵略基地撤去闘争」との重層的複合結合を維持し、侵略反革命との全面的政治対決を、そしてその一方の軸を「組織された暴力」の発展としての「人民総武装」として勝ち取り、他方でのプロレタリア体制の革命への階級的重層性を「プロレタリアート被抑圧人民の階級的同盟を將に農民とプロの統一戦線として確立し」という過渡的スローガンに代表される全人民的政治闘争―革命的存在として、またその闘いはこの二重の位置として発展せざるを得ないのである。

第二に、この闘いは侵略抑圧反革命の帝国主義内部に於ける政治的環としての差別分断支配攻撃―農民化政策との全面的対決である。60年代に於ける高度経済成長政策―大独占集中集積化―軍事工業化軸の経済的軍事

基本政策の中でこの位置として日帝ブルジョアジーは判断せざるを得ないのである。この矛盾こそ一地方で農村での保守層の減少―農村プロの育成として、この大独占中軸の基本政策は国内市場再収奪から世界市場への進出の方向に於いて日帝ブルジョアジーの侵略反革命再編の国内的政策環となり、そしてその基本政策は70年代以降も田中による「列島改造政策」―全国総体制として一方での国内プロ被抑圧人民―住民総体の圧倒的反対を生じさせつつも基本政策として修正し得ない。それは今日のインフレ強収奪政策と他方での慢性的スタグフ化の経済的停滞局面を迎えながらその激化の中で強占による主導的市場制圧として再度他方での市場再分断の激化と共に登場してきたことを得ない。この政策軸は農地の工業化の中で農業プロレタリアートの都市下層プロレタリア半プロ化としての「出かせぎ」形態をより発展恒常化させていくのであり、その中であつていゆる都市下層プロ―労働者という形態での単純肉体的労働―断絶に労働力の使捨てとしての停滞的過剰人口の存在を基盤を与えられ、その搾取抑圧形態は將に切り捨て―農民化政策という差別分断支配攻撃として帝国主義ブルジョアジーの基本政策と重層化されているのである。

第三にこの三里塚闘争は、先に述べた日帝ブルジョアジーの基本的政策たる国土総合開発―列島改造と継承化される高度経済成長政策―国内侵略反革命再編―国内再収奪―列島破壊生活破壊と闘う全人民的闘争―生活生存防衛闘争との不可避の頂点を有し、かつその結果として闘われざるを得ない。パイプライン粉砕―高入兵闘争等として、また全総の住民―人民闘争として、その闘いは、帝国主義ブルジョアジーの侵略再編―悪無限の自己欲望の中で住民―人民に反発する全人民的闘争として、公害闘争―住民闘争のともすれば政治闘争―階級闘争としての質的問題のゆがめられてゆく傾向をその闘い自身内部でその傾向を粉砕しつつ、全国の反公害―住民闘争の中に確固とした階級性と政治性を注ぎ込むその頂点の試金石としてこの三里塚闘争のもうひとつの闘いがあり、それゆゑこの闘いは現実的にも「新関西国際空港阻止闘争」をはじめとする無数の住民―人民闘争と結合し、それらの人民闘争としての階級的多様性を逆に政治闘争としてその階級的展開としてその重層性を展開し、全ゆる形態で全人民性として帝国主義ブルジョアジーを徹底して追いつめる全国的政治闘争の一翼を形成してゆくのである。

三里塚闘争は、政治闘争としての全人民性階級的重層性を武器としての階級的闘争の中で、プロレタリアート被抑圧人民の階級的同盟を軸として明確にプロレタリア闘争に於ける重要な一基盤を形成するその目的意識的闘いの現実であり、共産主義運動の萌芽でもあり、そして他方、農民―農業プロレタリアートの自己闘争―土地を守る闘いとして帝国主義の侵略再編への徹底的闘争は、それ自身の民主主義的要求―民主主義闘争の極限を契に現実化させつつその内部での総体的生活領域としての深化広範化は政治闘争としての広範性を確立させ、更にまたその事自身が將に人民戦争の形で国内現実として、他の住民―人民闘争（とりわけ反公害闘争―水俣の闘争を見よ）の戦闘性を半の組織された暴力として、その深化広範化は政治闘争としての階級性として守り抜き発展させる

ものとして位置している。將に74年秋期闘争の一大頂点である。

この三里塚闘争の階級的階層を断固維持し防衛する闘いとして、今秋期闘争に全国一全戦線をおける結合連帯し抜き徹底して闘い抜け、この闘いの中で將に大衆武装―全人民武装として大衆武装―全人民武装として革命軍―赤軍の現実的建設を勝ち取りつつ、全ゆる形態での闘いを貫徹し抜き、プロレタリアート被抑圧人民の階級的同盟を革命戦争統一戦線としてより発展させる事、総してプロレタリア―社会主義革命闘争としてのこの三里塚闘争を闘い抜く事、この事が我々の任務である。今秋期闘争に於いて全国一全戦線をこの闘争に結合させ、かつ現地細胞はそれらの結合として明確な政治的結合として再度逆流化させる事、全党一全細胞の三里塚闘争の任務はこの事が第一であり、そして今秋期闘争を大衆武装闘争―実力闘争と遊撃ゲリラ戦―人民戦争と複合化結合させ組織する闘いに勝利する事、この事を勝ち取らねばならない。

今秋期三里塚闘争に総決起せよ！

大鉄塔撤去を実力闘争で断固阻止せよ！

大衆武装―赤軍建設を三里塚闘争の勝利的前進の中で勝ち取れ！

10・10三里塚現地闘争に全国総決起せよ！

△岩山大鉄塔断固死守！

△軍事空港開港策動断固阻止！

△71年9月戦争への謀略弾圧粉砕！

△三里塚闘争勝利！

